

シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「林業の根幹である苗木づくり」



株式会社前田樹苗園
代表取締役
土谷 由希子

■自己紹介

大学卒業後、木工用機械刃物を製造する会社で事務職（人事・海外営業）として約十二年勤務。その間、三人の子どもに恵まれ、育児短時間勤務の終了を機に退職し、二〇一九年から家業の林業用苗木の生産に携わっています。

■活動内容

弊社では、林業用コンテナ苗木（ヒノキ・スギ）の生産をしています。愛知県内での苗木需要を考慮して、主にヒノキコンテナ苗の生産が中心です。今でこそ、コンテナ苗は一般的になってきましたが、弊社が生産に取り組み始めた二〇一二年当時は、まだコンテナ苗の生産手法が確立さ

れておらず、試行錯誤の連続でした。

現在では、安定的に七割以上の得苗率を維持しており、毎年十萬本のコンテナ苗生産を目標として苗木づくりに取り組んでいます。また、「国民病」とも言われる花粉症対策に貢献できるような、花粉の少ない苗木の生産も行っています。さらに、特定母樹（在来の系統より成長が早く、花粉量の少ない樹木）と呼ばれる新品種や、新しい肥料などが次々と開発されており、愛知県森林・林業技術センター、愛知県林業種苗協同組合と共同研究を行い、積極的にそれらを取り入れ、より合理的な苗木生産技術の開発に向けた取り組みを行っています。

■弊社が苗木づくりを始め

たきっかけは、私の祖父が、愛知県に林業用苗木の生産者がいなくなることに危機感を持



夏季におけるコンテナ苗への散水

ち、八十二歳の時に生産を始めたこととです。曾祖父の時代には苗木を生産していたものの、数十年間苗木づくりから離れていたにもかかわらず、生産を始めた祖父のバイタリティーには、頭が下がります。その後母、私へと家業が引き継がれて今に至ります。

素人同然の祖父、母、そして私が苗木づくりを続けてこられたのは、全国の生産者の皆さん、愛知県や組合、従業員など、本当に多くの方に支えられてきたからです。祖父が苗木生産を始めて十二年が過ぎました。今までいただいたご恩を少しでもお返しできるよう、視察を積極的に受け入れたり、今までの経験を伝えたりと、苗木生産技術の発展のために少しでも力になれるよう努力しています。

■メッセージ

コンテナ苗づくりは、軽作業が多く、時間的な融通も利くので、高齢者や子育て世代の女性が活躍できる仕事だと思っています。私自身も子育てをしながら苗木生産を続けることができており、このことがもつと世間に広がってほしいと思っています。



圃場の前で従業員とともに

また、林業は「植える→育てる→伐って使う→植える」というサイクルを繰り返しながら森林資源を循環利用する産業であり、そのどこか一つでも欠けたら、資源の循環は進まなくなり、森林の健全性も失われます。「植える」という段階、まさに「林業の根幹」とも言える苗木づくりに携われていることを私は誇りに思っています。引き続き、優良な苗木生産に取り組み、日本の林業に寄与できるよう日々努力を重ねていきます。

■連絡先

愛知県丹羽郡大口町大御堂1-220-4
株式会社前田樹苗園

